

井上政雄先生のご逝去を悼む

人は死んで骨を残す。だが自分の骨をまじまじと見つめた人はいない。人の骨は、後の人が拾って崇めるものである。生の人の現実の骨が赤裸に現れたのが、字体である。風格のある書風に出合うと心がなごむ。字は人の人としてのでき具合を表すものなのである。

一億の日本人の誰もが井上政雄先生の学恩を受けてきたといっても言い過ぎではない。戦前・戦後を通じて文部省検定済教科書で、『習字』の教科書を編纂し、教育現場の先生たちにお手本を示して来られた。日本の子供の伸びやかなすがすがしい字の淵源は、井上桂園(本名、政雄)先生にあつたのである。

広島高等師範学校及び広島大学教育学部で書道の専門家を育成し、書誌『耕心』により、「普遍妥当・穩健中正」の書風を全国に広め、全国小・中・高・大学各書道教育関係者の指導に終生を尽くされた。その功績は筆舌に尽くし難く、国民の生きの力の根源を示した人と言ってよい。

井上政雄先生の御霊の永遠に安らかならむことを祈りたい。九十三歳没。

教育学部国語科教育学 江端義夫(えばた・よしお)



大村裕先生のご逝去を悼む

名誉教授大村裕先生は、平成九年一月二十六日の朝、七十歳でご逝去されました。

先生は、昭和二十三年に京都帝国大学工学部土木工学科を卒業され、同学部の助手、講師から神戸大学工学部の講師、助教授、教授を経て、昭和四十一年に広島大学工学部へ赴任されました。平成元年に広島大学をご退官後も広島工業大学で教育と研究に携わり、本年三月にご退官の予定でした。

先生のご専門は、橋梁工学における板構造の諸問題を中心に、斜桁橋、板シェル構造、曲線桁、異方性板などの解析で、この分野の先駆的な研究を担ってこられました。また、アストラムライン建設中の悲惨な事故に際しては、事故対策技術委員会の委員長を引き受けられ、「この道に携わる者として身を引き裂かれる思いだ」と述べられた姿に深く感銘を受けました。

先生を知る人はすべて、先生が温厚で誠実な学研の人であつたことを疑わず、理路整然とした優しい話し方に説得力があり、公の場で大声を出された記憶はありません。また、先生は衆知の愛妻家で、「うちの奥さんは……」と話される姿が目につかびます。ここに、教えを受けた者一同、冥福を祈ります。

工学部建設構造工学講座 佐藤 誠(さとう・まこと)

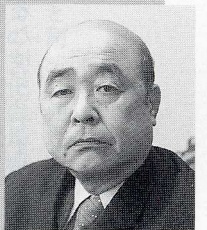


瘦骨先生大往生

医学部の公衆衛生学講座を創設された名誉教授田中正四先生(別名 瘦骨先生)が、去る一月二十八日、自宅において、かかりつけ医と大病院の行き届いた連携医療のもとで、奥様に見守られながら大往生されました。享年八十一歳と九か月、瘦骨先生らしい威厳と風格を保った彼岸への旅立ちでした。

先生の教育研究業績は数々ありますが、一貫して流れている思想と洞察力の原点は、「アジアに駆せる人類愛と歴史的背景を踏まえた社会現象の究明」にあつたように思います。西欧合理主義に毒された理数系の者にとつては対局の憧れの師であり、先行き不透明な現在、来世紀に向かつての羅針盤を失った感があります。この機会に、昔も今も、西欧でも東洋でも変わらない、変わつてはいけぬ「公衆衛生学」の基盤を再確認し、変化・発展の方向を見定める必要があると思っております。邪念多き弟子たちを酒の肴に、先に逝かれた諸先生と杯を酌み交わしながら見守つて下さい。南無阿弥陀仏。

医学部公衆衛生学教室 吉永文隆(よしなが・ふみたか)



小谷鶴次先生のご逝去を悼む

名誉教授小谷鶴次先生は、平成九年二月八日大腸がんのために逝去された。八十四歳でした。

先生は、昭和十年東京帝国大学を卒業された後、東北帝国大学講師、助教授、教授を経て、昭和二十四年に広島大学政経学部教授に就任され、昭和五十一年に停年退官されるまで広島大学で教育研究に専念され、その後修道大学で教鞭をとられた。

先生のご専攻は国際法でしたが、とりわけ、領域、分裂国家、国連、軍縮などの分野に力を注がれ、卓越した語学力を駆使されて、優れた著書・論文を世に出された。学外においても、世界連邦建設同盟理事、広島平和文化推進審議会委員などを歴任され、世界平和の実践活動に貢献された。また、日本とポーランドとの間の文化交流及び平和友好関係に尽力された功績が評価され、昭和五十四年にポーランドからポーランド人民共和国功労章を授与されています。

先生は温和な性格で、大学関係の人だけでなく、多方面の多くの人から慕われていました。謹んで先生のご冥福をお祈り申しあげます。

法学部国際関係講座 水上千之(みずかみ・ちゆき)

